

30年以上前の感動を胸に

八甲田連峰 山スキー

GWの八甲田は、自分が初めて北東北の山スキーに行ったところ。今回同様、カミさんも一緒だった。思えば高速を使って宮城以北に行ったことがなかった頃のことだ。30歳を少し過ぎた時だった。車を走らせ十和田湖岸を回り、奥入瀬溪谷の横を走り、八甲田へ。その自然の凄さに感動したことを覚えている。あれで東北の自然にハマったように思う。

以来様々なところに行き、様々な自然に接し、越後湯沢の自然に暮らし、自然には慣れきってしまった身だ。さて、どんな顔で八甲田の自然は我々を迎えてくれるだろうか。

5月3日

その30年前は、初日田茂谷地岳から大岳に登り、小岳を滑り、そして高田大岳へ。そんな縦走を日帰りで行ったが、もう若くはない。年相応にのんびりやろう。ということで、今日はその前半部分をやることにした。

田茂谷地岳にロープウェイを使って登る。スキーをかついで先のピークへ行き、そこからまずは大斜面の滑降。ザラメが気持ちいい。カミさんはといえば、久しぶりの山スキーに慣れない様子。昨年今年とスキーの腕は結構上げたのだが、まあ勝手が違うのもやむをえまい。



田茂谷地岳頂上から右奥の大岳を目指す



大岳の登りから青森湾が見える

面を小屋の上まで、そこから左にルートを取る。やがて地図にもある大湿原に行く。ここでルートを間違えてしまった。もっと左へトラバースして大岳環状ルートに乗らないといけなかったのだが、そのまままっすぐに行ってしまった。おかげで急斜面のヤブに突き当たるわ、最後は結構なアップ

【日程】

2017年5月3日(水)
～5月5日(金)(7日(日))

【メンバー】

手嶋(L)、会外(妻)

【地形図】

雲谷、田代平、酸ヶ湯、八甲
田山

【記】手嶋

ダウンになるわでかなり苦労した。最後の部分で大岳環状ルートを滑って来る人達が左から来たが、こちらが汗をかくなか、気持ち良さそうに滑ってきた。

酸ヶ湯温泉上部の大斜面を滑って、酸ヶ湯に滑り込んで終了。バスでロープウェイ駅に戻った。バスは以前のように便が多くな、ちゃんと時間を読みながらの行動をしないとイケなかった。これは今後も要注意だ。



大岳山頂には雪がなかった

5月4日

今日は南八甲田をやる予定。できれば乗鞍岳まで行きたいところ。

睡蓮沼の道路脇に何とか駐車。着いた頃は車で一杯で、かろうじてというところだ。シールを着け南側に雪壁を登って降りる。登りは終始緩い。人が少なくて静かがいい。カミさんは結構しんどそう。まあ私のこれまで使っていた春スキーセットを貸したので、これは



猿倉岳への登り。左から大岳、小岳、高田大岳

結構重い。方や私のはこの春に買った最軽量のセット、登りの負担は全く違う。なんでオマエが重い方を履かないのだ、と言われそうだが、彼女のブーツはテックビン対応ではないのだ。それでもヤツはフルマラソンを走ったりした体力があるはずだ。最近めっきり落ちたようだが。

途中休憩を取りながら、猿倉岳手前の稜線に。南八甲田の展望が一気に開ける。乗鞍岳はいったん黄瀬川に下ってから登り返しが必要だ。猿倉岳の頂上は平坦。展望はいい。カミさんはもうここでいいという。行ってこい、自分は待てるから、と。行って帰ってくれば1時間ではきかないので、さすがにそういうわけにもいきまい。この先は諦めることにした。かくして頂上で1時間半ものんびりした。まあこういうのも悪くはない。

滑降は猿倉温泉を目指す。傾斜は緩く、つつい右に行ってしまうがちなのを、何とか左に修正しながら滑っていく。やがて浅い沢を越えた右手の中間尾根に入り、そこを滑ると最後沢を渡って猿倉温泉に到着。バスの時間まで大分あったがのんびりと過ごした。



穏やかな猿倉岳山頂

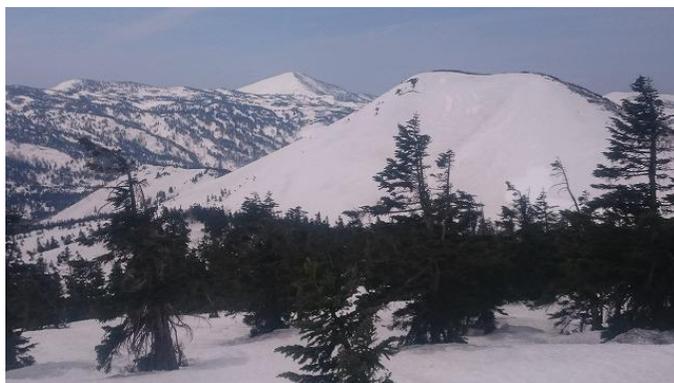
5月5日

カミさんはもう疲れたから行かないという。仕方ないので1人で行くことにした。ルートは睡蓮沼から硫黄岳に登って東面を滑り、その後小岳に登り返して大斜面を滑って猿倉温泉入口まで、と設定した。

睡蓮沼から硫黄岳と小岳の鞍部方面を目指し、緩く登っていく。時に緩急も出るが概して非常に楽。目視でこのあたりというところから、最初は左上トラバース気味に硫黄岳の斜面に取り付いた。その後ほぼ直登していく。標高差 150m の急斜面をジグを切りながら登り、難なく稜線へ。左へ少し行けば頂上だ。今日は昨日までよりは少しうっすら雲があるが、展望は相変わらず素晴らしい。何より人がいないのがいい。このコース、もっといるかと思ったが、ここまで人には会わず。

景色を堪能してから、シールをはずし少し戻って適当なエントリーポイントから滑降。無立木の大斜面にシュプールをきざむ。標高差 150m の滑降、数 10 分かかって登ったところは、わずか 1 分で終了だった。

最低地点でシールを履き、小岳の登りにかかる。こちらは結構針葉樹が多く、それなりに斜度もある。針葉樹の間を縫いながら、できるだけ雪がきれいに続いているところを登っていく。下から見て明らかに頂上下で雪が切れているのがわかった。何とか登山道に出られるように登らないと。まあそれも成功し、雪が切れるところで難なくピタリと登山道に出た。スキーをかついで頂上まで 5 分ほど。頂上には雪がなかった



が、誰もいない頂上は気持ちが良かった。

食べ物を少しほおぼり、滑降に移る。小岳の南東大斜面は八甲田山中でも高田大岳に続く標高差のあるものだろう。硫黄岳とは異なり 1 分で終了ということではなく、結構長い間楽しめた。やがてあたりは平坦になり、トレースをできるだけ追いながら猿倉温泉方面を目指す。ついつい下に行きがちだが、ここは可



能な限り左に振っていかないといけない。がんばって左へ左へと進み、車道の気配を感じる頃に沢をわたって進めば、ピタリと猿倉温泉入口のバス停に到着した。カミさんが車で待っていてくれた。今日は人に会わなくて本当に良かった。

ということで、3日間天気にも恵まれいい山スキーができた。この後は三内丸山遺跡を訪ねるなど観光モード。最終日に軽く滑ろうと思っていたが、天候が不安定だったのでそれもやめ、帰途についた。あの時感じた大自然の凄さ…、残念ながらこちらがそういうものに慣れてきてしまい、あの感動を得ることはできなかったが、八甲田の自然は変わらずにそこにあった。

【行程】

5/3 ロープウェイ山頂駅 (9:30) ~寒水沢 (10:15) ~避難小屋 (11:25) ~大岳 (12:05/12/10)
~湿原入口 (13:05) ~酸ヶ湯温泉 (14:05)

5/4 睡蓮沼 (9:20) ~猿倉岳 (11:25/13:05) ~猿倉温泉 (13:40)

5/5 睡蓮沼 (8:20) ~硫黄岳 (9:40/9:55) ~小岳登り始め (10:00) ~小岳 (11:25/11:35) ~
猿倉温泉入口 (12:05)

